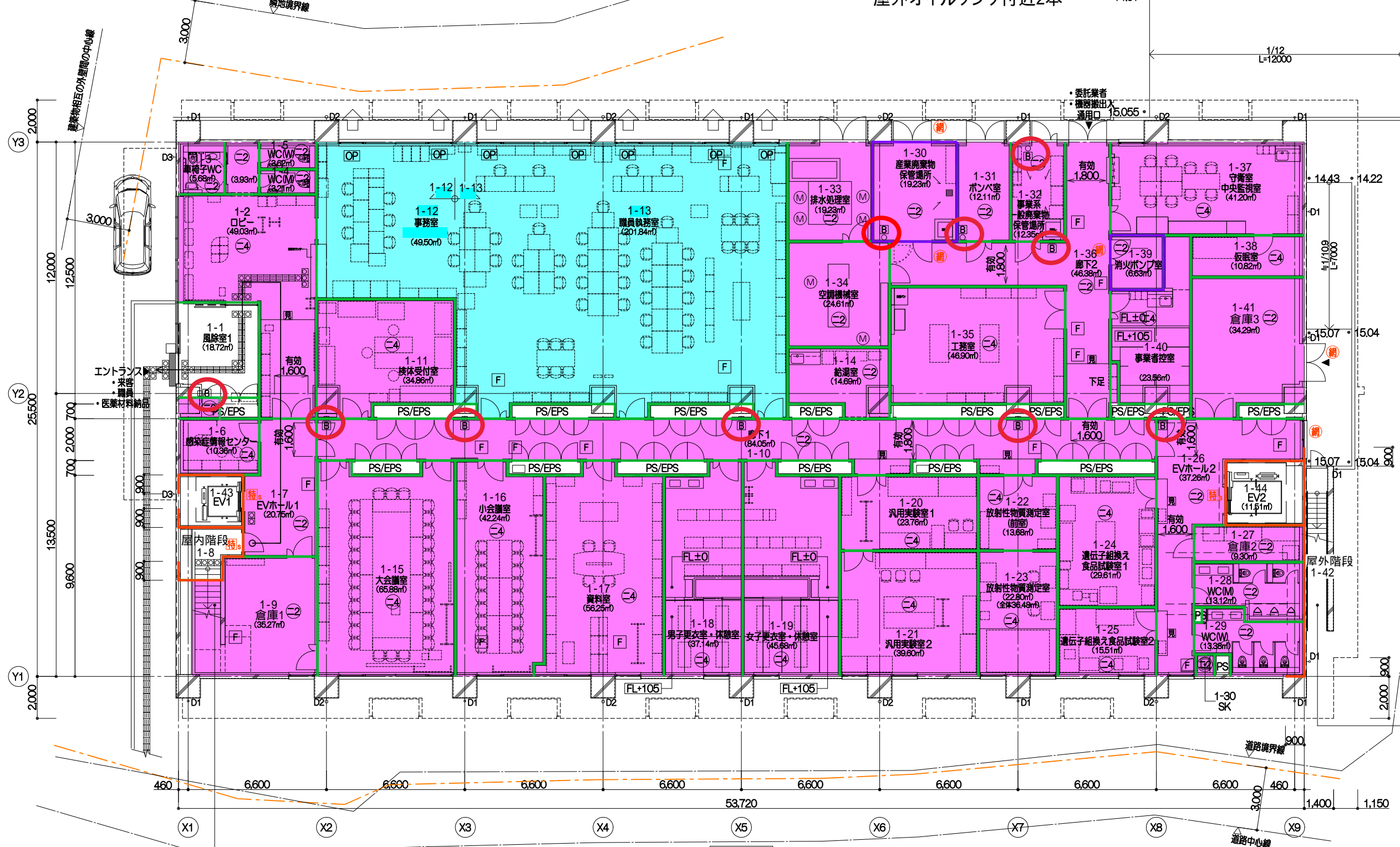


屋外オイルタンク付近2本



法規制凡例

| | |
|--|--|
| 延焼のおそれのある部分 (法2条6号) | 防火区画 (兼防煙区画) 特記なき場合は1時間耐火構造 ・鉄筋コンクリート壁t=180 ・軽量鉄骨壁下地 両面不燃強化せつこうボード t=12.5×2枚 FP060NP-0289 |
| 防煙区画 特記なき場合は、扉等の開口部上部は防煙垂壁 H=500以上とする | 消防不燃区画 |
| 常時閉鎖式特定防火設備、遮煙性能あり (令112条14項2号) | 防火設備 (法2条9号の2口) (ガラスがある場合は網入りガラス) |
| 自然排煙 | 令126条の2第1項3号により 排煙設備を設けない部分 |
| (無色) | H12告示1436号4号ニ (1) |
| ① | H12告示1436号4号ニ (2) |
| ② | H12告示1436号4号ニ (3) |
| ③ | H12告示1436号4号ニ (4) |
| ↑ | 自然排煙口 令126条の3に規定する排煙口 |
| OP | 排煙オペレーター 床面より800以上1500以下の範囲に設置 |
| 歩行距離 | 歩行距離 |
| 重歩行距離 | 重歩行距離 |
| 直通歩行距離 | 直通歩行距離 |

注
1.EPS/PSはスラブによる水平区画とする。
2.法28条第2項の換気は機械換気とする。
3.コンクリート壁t=150は建築基準法第2条第8号の防火構造を満足する軽量鉄骨壁下地両面不燃強化せつこうボードt=12.5×2枚張りであり、上方1000以内は天井なし。

注
1.EPS/PSはスラブによる水平区画とする。
2.法28条第2項の換気は機械換気とする。
3.コンクリート壁t=150は建築基準法第2条第8号の防火構造を満足する軽量鉄骨壁下地両面不燃強化せつこうボードt=12.5×2枚張りであり、上方1000以内は天井なし。

屋外直通階段

| | |
|----|--------|
| 幅員 | 900 |
| 蹴上 | 193.47 |
| 踏面 | 240 |
| 踊上 | 1200 |

内周部手摺付き
手摺の出幅は100以下

屋内直通階段

| | |
|----|--------|
| 幅員 | 1200 |
| 蹴上 | 174.04 |
| 踏面 | 270 |

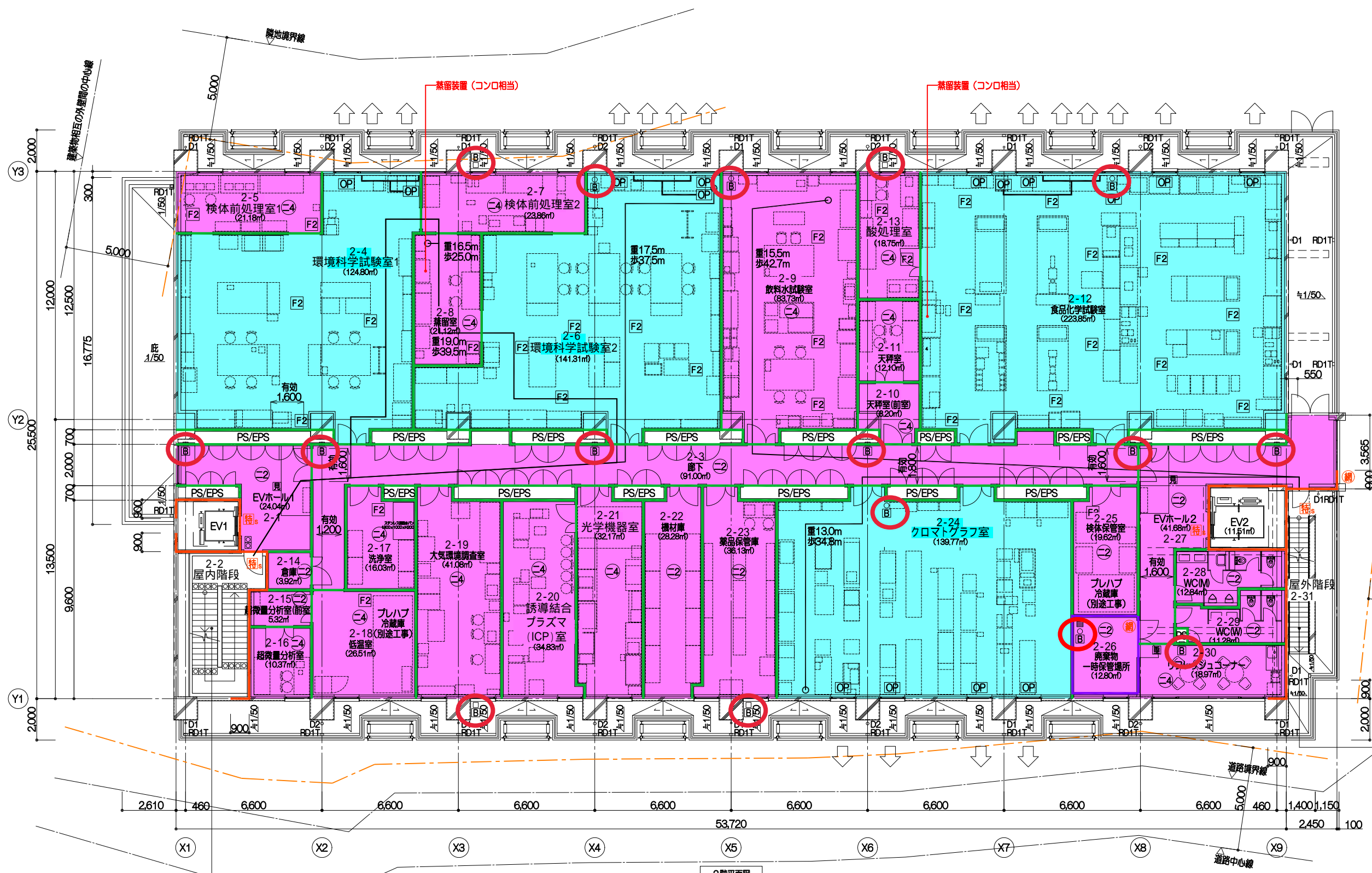
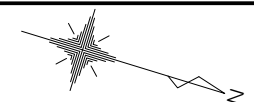
内周部手摺付き
手摺の出幅は100以下

< 消火器凡例 >
○: 粉末消火器
10本+屋外2本

凡例

| | | | | | |
|---|-----------------|------|--------------|----|------------------|
| □ | 注意喚起用ブロック | D1 | 縦幅φ75 カラー塩ビ | ○ | 床見切縁 |
| ■ | 誘導用ブロック | D2 | 縦幅φ125 カラー塩ビ | — | 防煙垂壁 網入り板ガラスt6.8 |
| F | 床点検口 | D3 | 縦幅φ75 アルミ | ▲ | 非常用進入口 |
| | | RD1 | ルーフトレインφ75 | ▲ | 非常用進入口に代る開口部 |
| M | マンホール | RD1T | ルーフトレイン縦型φ75 | ▲ | 非常用進入口に代る開口部 |
| □ | 消火器ボックス壁埋込み/床置き | RD2 | ルーフトレインφ125 | 有効 | 廊下有効幅員 |
| | | RD2 | ルーフトレインφ125 | 有効 | 廊下有効幅員 |

注
1.上記の詳細仕様は別図による
2.FL=15.27とする
3.特記なき場合は、室内床高さはFL±0とする
4.室名下の**mは室面積 (壁芯・少数第3位切り下げ) を表す



- 法規制凡例
- 延焼のおそれのある部分 (法2条6号)
 - 防火区画 (兼防煙区画)
特記なき場合は1時間耐火構造
・鉄筋コンクリート壁 t=180
・軽量鉄骨壁下地 両面不燃強化せつこうボード t=12.5×2枚 FP060NP-0289
 - 防煙区画
特記なき場合は、扉等の開口部上部は防煙垂壁 H=500以上とする
 - 消防不燃区画
 - 常時閉鎖式特定防火設備、遮煙性能あり (令112条14項2号)
 - 防火設備 (法2条9号の2口)
(ガラスがある場合は網入りガラス)
 - 自然排煙
 - (無色) 令126条の2第1項3号により排煙設備を設けない部分
 - ① H12告示1436号4号ニ (1)
 - ② H12告示1436号4号ニ (2)
 - ③ H12告示1436号4号ニ (3)
 - ④ H12告示1436号4号ニ (4)
 - 自然排煙口
令126条の3に規定する排煙口
 - OP 排煙オペレーター
床面より800以上1500以下の範囲に設置
 - 歩行距離
重○: 重複距離
歩○: 直通階段に至る歩行距離

注
1.EPS/PSはスラブによる水平区画とする。
2.法第28条第2項の換気は機械換気とする。
3.コンロ周囲150は建築基準法第2条第8号の防火構造を満足する軽量鉄骨壁下地両面せつこうボードt=12.5×2枚張りであり、上方1000以内は天井なし。

屋外直通階段

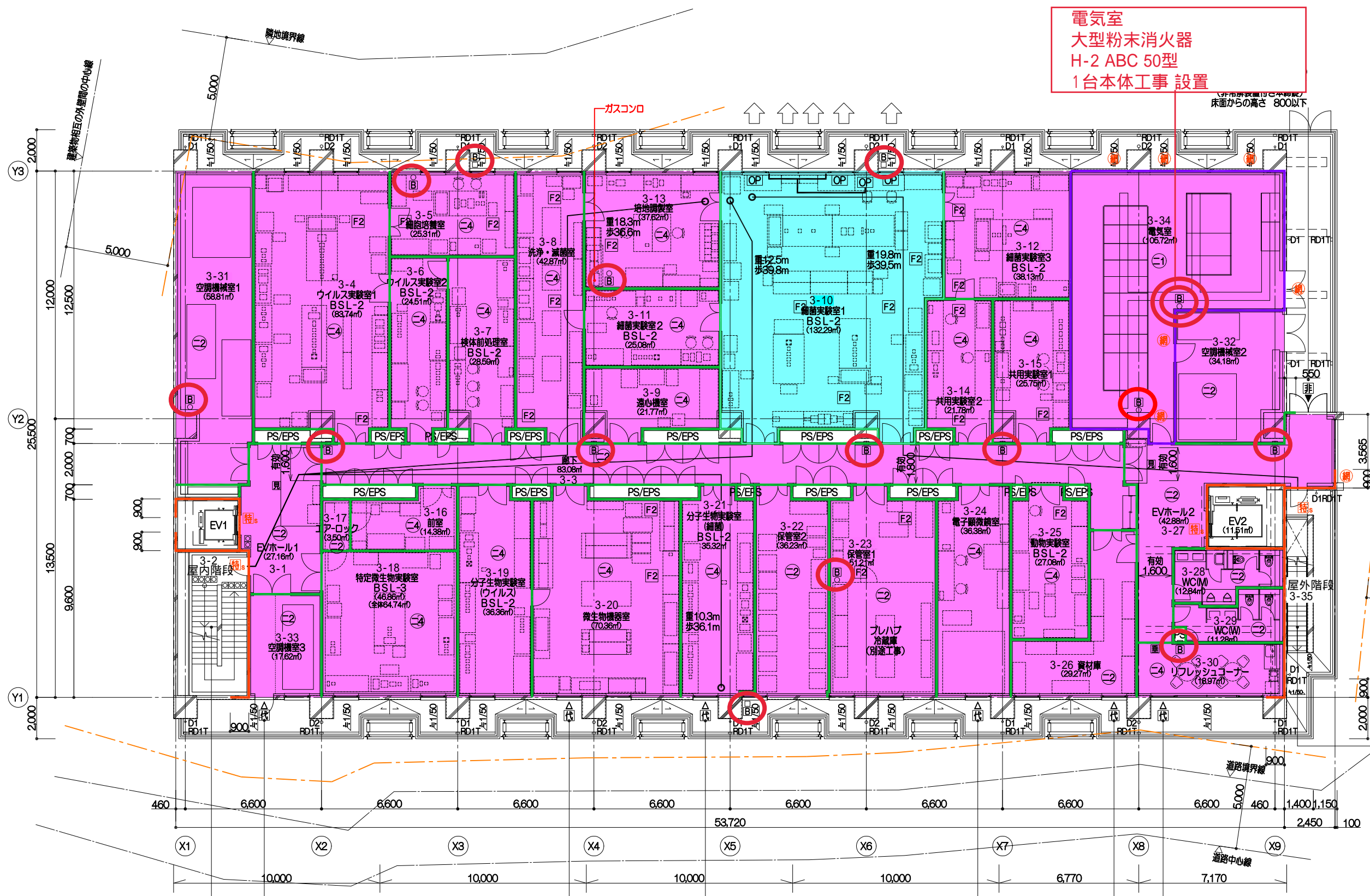
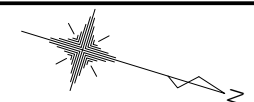
| | |
|----|--------|
| 幅員 | 900 |
| 蹴上 | 195.83 |
| 踏面 | 240 |
| 踊上 | 1200 |

内周部手摺付き
手摺の出幅は100以下

< 消火器凡例 >
○: 粉末消火器
16本

凡例

| | | | | | | | |
|---|-----------------|------|--------------|----|------------------|---|------------|
| □ | 注意喚起用ブロック | D1 | 縦幅φ75 カラー塩ビ | ○ | 床見切縁 | 注 1.上記の詳細仕様は別図による 2.1FL=15.27とする 3.特記なき場合は、室内床高さはFL±0とする 4.室名下の**mは室面積(壁芯・少数第3位切り下げ)を表す | |
| ■ | 誘導用ブロック | D2 | 縦幅φ125 カラー塩ビ | — | 防煙垂壁 網入り板ガラスt6.8 | | |
| F | 床点検口 | D3 | 縦幅φ75 アルミ | ▲ | 非常用進入口 | | |
| M | マンホール | RD1T | ルーフトレイン縦型φ75 | ▲ | 非常用進入口に代る開口部 | | |
| ○ | 消火器ボックス壁埋込み/床置き | RD2 | ルーフトレインφ125 | 有効 | 廊下有効幅員 | □ | 消火器ボックス屋外用 |



電気室
大型粉末消火器
H-2 ABC 50型
1台本体工事 設置

- 法規制凡例
- 延焼のおそれのある部分 (法2条6号)
 - 防火区画 (兼防煙区画)
特記無きは1時間耐火構造
・鉄筋コンクリート壁t=180
・軽鋼鉄骨壁下地 両面不燃強化せっこうボード t=12.5×2枚 FP060NP-0289
 - 防煙区画
特記なき場合、扉等の開口部上部は防煙垂壁 H=500以上とする
 - 消防不燃区画
 - 常時閉鎖式特定防火設備、遮煙性能あり (令112条14項2号)
 - 防火設備 (法2条9号の2口) (ガラスがある場合は納入りガラス)
 - 自然排煙
 - (無色) 令126条の2第1項3号により排煙設備を設けない部分
 - ① H12告示1436号4号ニ (1)
 - ② H12告示1436号4号ニ (2)
 - ③ H12告示1436号4号ニ (3)
 - ④ H12告示1436号4号ニ (4)
 - 自然排煙口 令126条の3に規定する排煙口
 - OP 排煙オペレーター 床面より800以上1500以下の範囲に設置
 - 歩行距離
 - 重O: 重複距離
 - 歩O: 直通階段に至る歩行距離

注
 1.EPS/PSはスラブによる水平区画とする。
 2.法28条第2項の換気は機械換気とする。
 3.コンロ周囲150は軽鋼鉄骨壁下地両面不燃強化せっこうボードt=12.5×2枚張りであり、上方1000以内は天井なし。

屋外直通階段

| | |
|----|--------|
| 幅員 | 900 |
| 蹴上 | 195.83 |
| 踏面 | 240 |
| 踊上 | 1200 |

内周部手摺付き
手摺の出幅は100以下

屋内直通階段

| | |
|----|--------|
| 幅員 | 750 |
| 蹴上 | 196.29 |
| 踏面 | 250 |

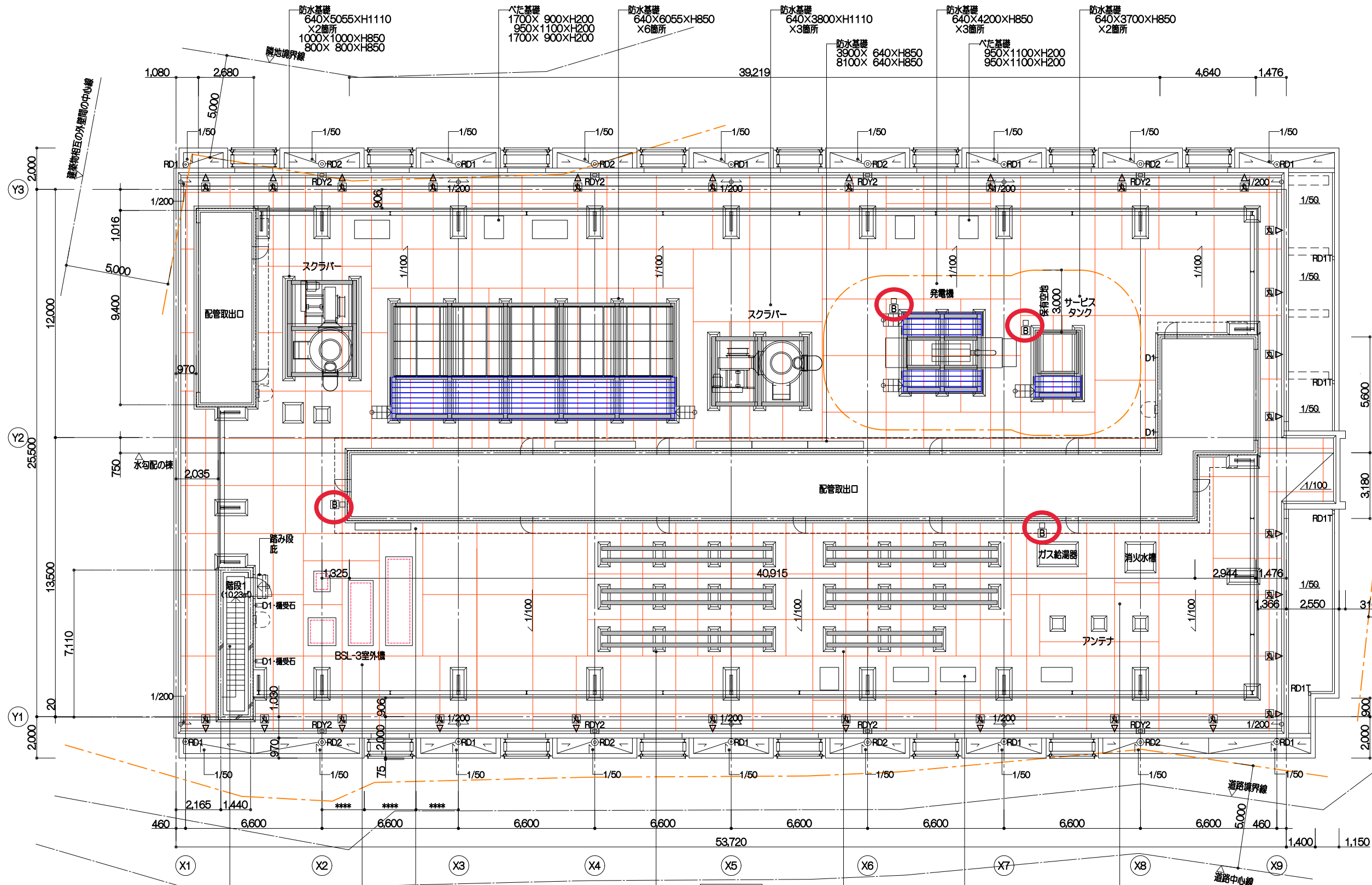
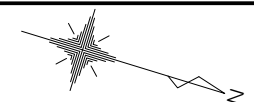
内周部手摺付き
手摺の出幅は100以下
内周部手摺付き
幅員750は3階からPH階までとする。

幅750 高さ1200
 ガラス破壊
 ガラス複層ガラス
 普通ガラス5mm+基板LOW-Eガラス+空気層5mm+普通ガラス5mm

< 消火器凡例 >
 ○: 粉末消火器
 14本

凡例

| | | | | | |
|---|-----------------|------|--------------|----|------------------|
| □ | 注意喚起用ブロック | D1 | 縦樋φ75 カラー塩ビ | ○ | 床見切縁 |
| ■ | 誘導用ブロック | D2 | 縦樋φ125 カラー塩ビ | ⊖ | 防煙垂壁 納入り板ガラスt6.8 |
| F | 床点検口 | D3 | 縦樋φ75 アルミ | ⬆ | 非常用進入口 |
| | | RD1 | ルーフトレインφ75 | ⬆ | 非常用進入口に代る開口部 |
| M | マンホール | RD1T | ルーフトレイン縦型φ75 | ⬆ | 非常用進入口に代る開口部 |
| ⊖ | 消火器ボックス壁埋込み/床置き | RD2 | ルーフトレインφ125 | 有効 | 廊下有効幅員 |



法規制凡例

| | |
|------|---|
| | 延焼のおそれのある部分 (法2条6号) |
| | 防火区画(兼防煙区画) 特記なき場合は1時間耐火構造 ・鉄筋コンクリート壁 $t=180$ ・軽鋼骨下地 両面不燃強化せつこうボード $t=12.5 \times 2$ 枚 FP060NP-0289 |
| | 防煙区画 特記なき場合は、扉等の開口部上部は防煙垂壁 $H=500$ 以上とする |
| | 消防不燃区画 |
| | 常時閉鎖式特定防火設備、遮煙性能あり (令112条14項2号) |
| | 防火設備(法2条9号の2口) (ガラスがある場合は網入りガラス) |
| | 自然排煙 |
| (無色) | 令126条の2第1項3号により 排煙設備を設けない部分 |
| | H12告示1436号4号ニ(1) |
| | H12告示1436号4号ニ(2) |
| | H12告示1436号4号ニ(3) |
| | H12告示1436号4号ニ(4) |
| | 自然排煙口 令126条の3に規定する排煙口 |
| | 排煙オペレーター 床面より800以上1500以下の範囲に設置 |
| | 歩行距離 重O: 重複距離 歩O: 直通階段に至る歩行距離 |

注
 1.EPS/PSはスラブによる水平区画とする。
 2.法第28条第2項の換気は機械換気とする。
 3.コンクリート厚150は建築基準法第2条第8号の防火構造を
 満足する軽鋼骨下地両面せつこうボード $t=12.5$
 $\times 2$ 枚張りであり、上方1000以内は天井なし。

屋内直通階段

| | |
|-------------|--------|
| 幅員 | 750 |
| 蹴上 | 196.29 |
| 踏面 | 250 |
| 内周部手摺付き | |
| 手摺の出幅は100以下 | |

< 消火器凡例 >
 : 粉末消火器
 4本

凡例

| | | | | | | |
|--|------------|--|---------------------|--|-----------------------|----------------------|
| | 伸縮目地 | | タラップ | | ルーフドレイン縦型 $\phi 75$ | 注 1.上記の詳細仕様は別図による |
| | 鋼製床 | | 縦樋 $\phi 75$ カラー塩ビ | | ルーフドレイン $\phi 125$ | |
| | 丸環 | | 縦樋 $\phi 125$ カラー塩ビ | | ルーフドレイン横引き $\phi 200$ | |
| | 消火器ボックス屋外用 | | ルーフドレイン $\phi 75$ | | ルーフドレイン横引き $\phi 75$ | |
| | | | | | | |